4.5.6.1.2.2.　m_aをm_{fi}と等しくすることができない場合、F^*をF_E（シャシダイナモメータに設定する抵抗力）と同じにするために、以下の式に基づきΔT_{road}の総重量比に従ってΔT_Eを調整することができる。

$$\Delta T_{road}=\frac{1}{3.6}(m_a+m_{rl})\frac{2\Delta v}{F^*}$$

$$\Delta T_E=\frac{1}{3.6}(m_i+m_{rl})\frac{2\Delta v}{F_E}$$

$$F_E=F^*$$

$$\Delta T_E=\Delta T_{road}\times\frac{m_i+m_{rl}}{m_a+m_{rl}}$$

$$0.95<\frac{m_i+m_{rl}}{m_a+m_{rl}}<1.05$$

ここで、m_{rl}は、キログラム単位で測定又は計算することができる。代わりの方法として、m_{rl}をmの４％と推定してもよい。

4.5.6.2.　走行抵抗表より求める走行抵抗力のシャシダイナモメータの設定

4.5.6.2.1.　シャシダイナモメータは、惰行法によって得られる走行抵抗力の代わりに走行抵抗表を使って設定することができる。この抵抗表による方法では、シャシダイナモメータは、個々の試験二輪車等の特性と関係なく、m_{refl}によって設定するものとする。

注記７　特殊な試験二輪車等にこの方法を適用する場合は、注意を払うこと。

4.5.6.2.2.　m_{fi}は、別紙５に規定されたm_iとする。シャシダイナモメータに設定される走行抵抗力は、別紙５に規定されたaTとbTによって設定するものとする。

4.5.6.2.3.　F_Eは、以下の式より決定するものとする。

$$F_E=F_T=aT+bT\times v^2$$

4.5.6.2.4.　F^*は、周囲条件による補正を必要とせず、F_Tと一致するものとする。

4.5.7.　測定精度

測定は、下記の表４に記述した精度要件を満たす装置を使って実施する必要がある。

表４：必要な測定精度

測　定　項　目	測定誤差	最小測定単位
a）F	＋２％	—
b）v_1、v_2	±１％	0.2km／h
c）$2\Delta v=v_1-v_2$	±１％	0.1km／h
d）Δt	±0.5%	0.01s
e）m_k+m_{rid}	±0.5%	1.0kg
f）風速	±10%	0.1m／s
g）風向き	—	５°
h）温度	±１℃	１℃
i）大気圧	—	0.2kPa
j）距離	±0.1%	１m
k）時間	±0.1s	0.1s

4.6.　タイプⅡ試験

4.6.1.　適用

本要件は、ガソリンを燃料とするすべての試験二輪車等に適用する。

4.6.2.　試験燃料

使用する燃料の標準規格は、4.4.のとおりとする。

4.6.3.　物質の測定

タイプⅠ試験の直後にタイプⅡ試験を行いCO及びHCの含有量（体積比）を測定するものとする。

4.6.4.　エンジンの試験回転数

試験は、アイドリング状態で行うものとする。

4.6.5.　変速段の位置

手動又は足動変速機のギアボックスを装備した試験二輪車等の場合、変速位置をニュートラル位置に入れ、クラッチを接続した状態で試験を実施するものとする。

自動変速機のギアボックスを装備した試験二輪車等の場合、変速位置をゼロ又はパーキング位置のいずれかに入れて試験を実施するものとする。

5.　試験手順

5.1.　試験の概要

試験二輪車等は、当該車両のカテゴリーに従って、下記のとおりタイプⅠとタイプⅡの２タイプの試験が実施されるものとする。

5.1.1.　タイプⅠ試験

5.1.1.1.　試験は、5.2.に記述した方法によって実施するものとする。各ガスは規定された方法で回収及び分析するものとする。

5.1.2.　タイプⅡ試験

排出ガスのCO及びHC含有量は、5.3.に記述した方法によりエンジンをアイドリング状態で試験を実施することによって確認するものとする。

5.2.　タイプⅠ試験

5.2.1.　概要

5.2.1.1.　タイプⅠ試験は、シャシダイナモメータの準備、燃料補給、駐車、運転条件について規定した所定の手順によって行う。

5.2.1.2.　試験は、シャシダイナモメータ上で所定の運転サイクルに従って試験二輪車等を走行することによって行う。排出ガスはＣＶＳ装置を用いて、一定比率の希釈排出ガスを連続的に回収し、その後の分析に使用する。

5.2.1.3.　構成部品の異常又は故障が発生した場合を除き、試験二輪車等に取り付けられている又は組み込まれている排出ガス制御システムは、全ての手順において正常に機能しているものとする。

5.2.1.4.　排出ガス測定が実施される全てのガスの種類に関し、バックグラウンド濃度を測定する。排出ガス試験では、このために希釈空気のサンプリング及び分析を必要とする。

5.2.2.　シャシダイナモメータの設定及び確認

5.2.2.1.　試験二輪車等の準備

5.2.2.1.1.　タイヤ空気圧は、試験二輪車等の製作者の指定した空気圧に従うか、又は、道路試験中の試験二輪車等の速度とシャシダイナモメータ上で得られる速度が等しくなるように調整するものとする。

5.2.2.1.2.　試験二輪車等は、道路上で試験を行った場合と同じ条件で暖機するものとする。

5.2.2.2.　惰行法によりシャシダイナモメータの設定のための走行抵抗力を求めた場合には、試験の前に安定したF_fに達するまで適当な暖機を行うものとする。シャシダイナモメータ上の負荷F_Eは、その構成の点からは、以下の式で示すとおり、シャシダイナモメータの回転摩擦抵抗、タイヤの転がり抵抗、試験二輪車等の走行系の回転部品の抵抗からなるF_f及びF_{pau}の合計で求められる。

$$F_E=F_f+F_{pau}$$